

平成27年度第6回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成27年11月13日（金）9：30～10：45

場 所：各コア校（遠隔会議システム利用）

議 題：

1. ネットワークコア運営協議会の構成員等について
 - ・ネットワークコア運営協議会構成員名簿（案） 【資料1】
2. SPODフォーラム2015全体アンケート結果等について
 - ・SPODフォーラム2015全体アンケート集計結果 【資料2-1】
 - ・SPODフォーラム2015の参加者からの要望等について（案） 【資料2-2】
3. 第1回SPOD将来構想ワーキンググループについて
 - ・SPOD将来構想ワーキンググループメンバー 【資料3-1】
 - ・SPOD将来構想ワーキンググループ議事概要 【資料3-2】
4. SPODフォーラム持ち回りについて
 - ・「SPODフォーラム」四国地区各県持ち回り開催について（案） 【資料4】
5. 平成28年度SPOD事業計画について
 - ・平成28年度SPOD事業スケジュール（案） 【資料5-1】
 - ・SPODフォーラム2016の開催について（案） 【資料5-2】
 - ・SPODフォーラム過去の全体テーマ等 【参考資料1】
6. SPOD事業経費について
 - ・平成28年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費（案） 【資料6-1】
 - ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費の執行について 【資料6-2】
 - ・平成27年度SPOD教職員能力開発経費 申請要領 【資料6-3】
 - ・平成27年度SPOD研修物品費 申請要領 【資料6-4】
7. SPOD内講師派遣について
 - ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム一覧（案） 【資料7-1】
 - ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要（案） 【資料7-2】
 - ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査（様式） 【資料7-3】
 - ・平成27年度SPOD内講師派遣プログラム実施状況一覧 【参考資料2】
 - ・平成27年度SPOD内講師派遣プログラム希望理由、今後の計画等について 【参考資料3】
8. 平成27年度研修プログラム実施状況について 【資料8】

平成27年度 ネットワークコア運営協議会構成員名簿

平成27年10月1日現在

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室長	小山 順子	事務
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 教授	石井 知彦	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	佐藤 慶太	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ サブリーダー	高嶋 実	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	中屋敷 美和	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
	教育・学生支援室学務グループ	有馬 義江	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	廣瀬 暢彦	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係長	徳弘 英明	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室兼総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	SD・事務

ネットワークコア運営協議会の構成員に関する申合せ(抄)

(組織)第2 協議会は、次の(1)～(4)に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 議長
- (2) 各コア校のFD担当者
- (3) 各コア校のSD担当者
- (4) 各コア校の事務担当者

SPODフォーラム2015全体アンケート集計結果(経年変化比較Ver.)

当日参加者数:488名
 SPOD加盟校から:286名
 SPOD加盟校以外から:202名

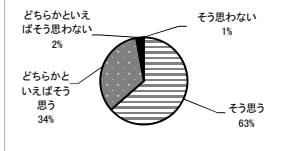
アンケート回答者数:181名
 回答率:37.1%
 回答期間:9/28(金)~10/2(金) ※フォーラム終了3週間後よりweb入力にて実施

1. SPODフォーラムでの研修成果について

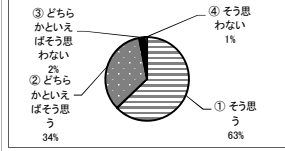
【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	度数	割合
① そう思う	115	63.5%
② どちらかといえばそう思う	61	33.7%
③ どちらかといえばそう思わない	4	2.2%
④ そう思わない	1	0.6%
計	181	100.0%
無回答	0	

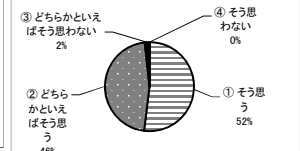
SPODフォーラム2015(愛媛大学開催)



SPODフォーラム2014(高知大学開催)

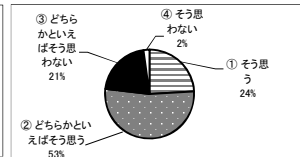
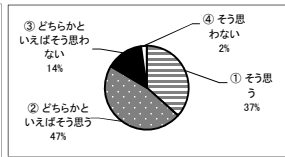
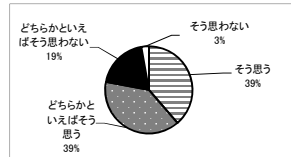


SPODフォーラム2013(愛媛大学開催)



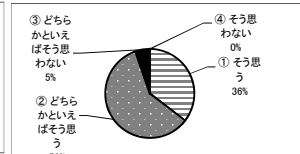
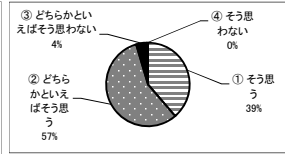
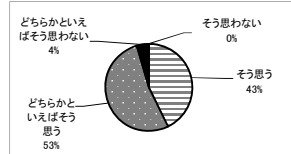
【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	度数	割合
① そう思う	70	38.7%
② どちらかといえばそう思う	71	39.2%
③ どちらかといえばそう思わない	35	19.3%
④ そう思わない	5	2.8%
計	181	100.0%
無回答	0	



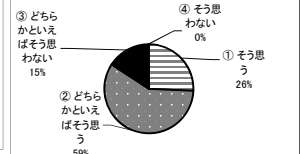
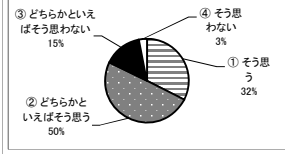
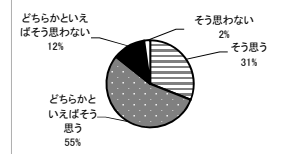
【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	度数	割合
① そう思う	77	42.8%
② どちらかといえばそう思う	95	52.8%
③ どちらかといえばそう思わない	7	3.9%
④ そう思わない	1	0.6%
計	180	100.0%
無回答	1	



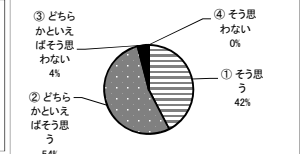
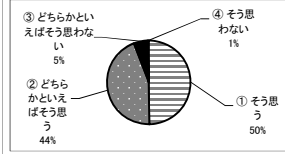
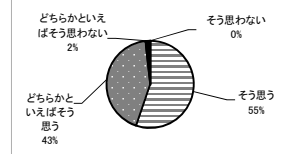
【業務や教育に対する意識や考え方が変わった】

	度数	割合
① そう思う	56	30.9%
② どちらかといえばそう思う	99	54.7%
③ どちらかといえばそう思わない	22	12.2%
④ そう思わない	4	2.2%
計	181	100.0%
無回答	0	



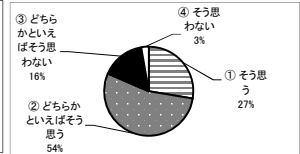
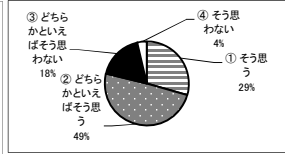
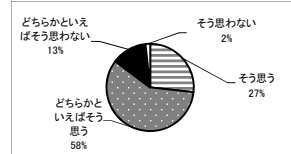
【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	度数	割合
① そう思う	100	55.2%
② どちらかといえばそう思う	78	43.1%
③ どちらかといえばそう思わない	3	1.7%
④ そう思わない	0	0.0%
計	181	100.0%
無回答	0	



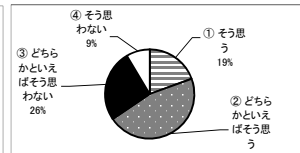
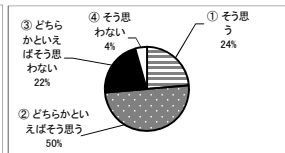
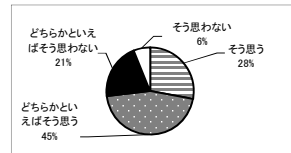
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	度数	割合
① そう思う	47	26.7%
② どちらかといえばそう思う	103	58.5%
③ どちらかといえばそう思わない	23	13.1%
④ そう思わない	3	1.7%
計	176	100.0%
無回答	5	



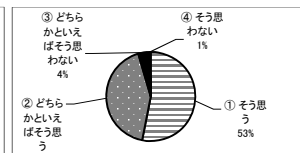
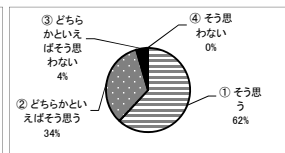
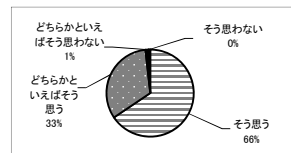
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	度数	割合
① そう思う	50	27.9%
② どちらかといえばそう思う	81	45.3%
③ どちらかといえばそう思わない	37	20.7%
④ そう思わない	11	6.1%
計	179	100.0%
無回答	2	



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

	度数	割合
① そう思う	118	65.6%
② どちらかといえばそう思う	59	32.8%
③ どちらかといえばそう思わない	2	1.1%
④ そう思わない	1	0.6%
計	180	100.0%
無回答	1	



2. 感想、ご意見、ご要望等（別紙参照）

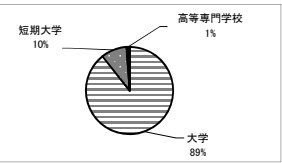
3. 参加者ご自身について

所属先

	度数	割合
① 大学	159	89.3%
② 短期大学	17	9.6%
③ 高等専門学校	2	1.1%
④ その他	0	0.0%
計	178	100.0%

無回答 3

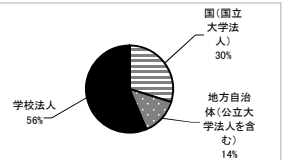
SPODフォーラム2015(愛媛大学開催)



所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	54	29.8%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	25	13.8%
③ 学校法人	102	56.4%
④ その他	0	0.0%
計	181	100.0%

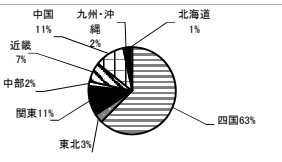
無回答 0



所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	113	62.4%
② 東北	6	3.3%
③ 関東	20	11.0%
④ 中部	3	1.7%
⑤ 近畿	13	7.2%
⑥ 中国	20	11.0%
⑦ 九州・沖縄	4	2.2%
⑧ 北海道	2	1.1%
計	181	100.0%

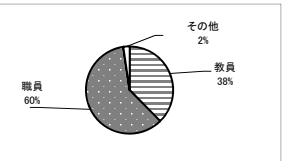
無回答 0



職種

	度数	割合
① 教員	67	37.6%
② 職員	107	60.1%
③ 学生	0	0.0%
④ その他	4	2.2%
計	178	100.0%

無回答 3

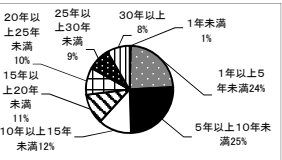


その他の記述内容（特任研究員,契約職員,テニュアトラック教員,嘱託職員）

大学教職員等の経験年数

	度数	割合
① 1年未満	1	0.6%
② 1年以上5年未満	42	23.6%
③ 5年以上10年未満	45	25.3%
④ 10年以上15年未満	22	12.4%
⑤ 15年以上20年未満	20	11.2%
⑥ 20年以上25年未満	18	10.1%
⑦ 25年以上30年未満	15	8.4%
⑧ 30年以上	15	8.4%
計	178	61.8%

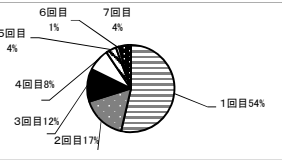
無回答 3



SPODフォーラムへの参加回数

	度数	割合
① 1回目	97	54.5%
② 2回目	30	16.9%
③ 3回目	22	12.4%
④ 4回目	15	8.4%
⑤ 5回目	7	3.9%
⑥ 6回目	2	1.1%
⑦ 7回目	8	4.5%
計	181	92.1%

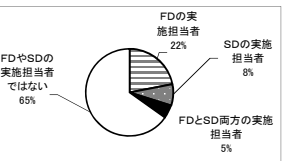
無回答 0



あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？

	度数	割合
① FDの実施担当者	39	21.9%
② SDの実施担当者	14	7.9%
③ FDとSD両方の実施担当者	9	5.1%
④ FDやSDの実施担当者ではない	116	65.2%
計	178	100.0%

無回答 3



SPODフォーラム2015 参加者からの要望等について

■開催時期／期間について

- ・業務の都合等で1日しか参加ができなかったため、3日間とも参加できるように連休中などの開催を希望します。
- ・職務の専門分野の他の研究会とバッティングしていて、なかなか参加しづらいという面があります。もう少し日程を前倒しするとかしていただければ、と思います。
- ・8月の末は他の研修とも重なり、どちらかを諦めざるを得ませんでした、9月の開催は難しいのでしょうか？

対応（案）

過去の実績に基づき、教職員が最も参加しやすい夏期休業中の平日に開催している。なお、来年度は愛媛大学で8月下旬に開催する予定である。

- ・同時期に開催していた他の研究会と調整を行い、日程が被らないよう対応した。

■開催会場について

- ・もっと広い会場（教室）であれば良かったと思う。グループ同士の間隔が狭すぎて、話しづらい場面もあった。
- ・グループワークの際に、周りの議論が白熱し、自グループの議論が聞こえにくいことが多々あった。難しいと思うが、教室の広さ（若しくは定員）を再検討してみてもどうか。
- ・全般的に会場が狭いと感じた。スケジュールもタイトであったので、移動時間を考えるとなるべく1つの建物の中で完結した方が良いのだと思うが、改善できるのであれば、空間に余裕がある方がありがたい。
- ・ポスターセッションの会場をもう少し広くし、発表者どうしの間隔を広くとっていただくと、ポスターを囲みやすく、見やすくなり、また近隣の発表者の声と重なって聞き取りにくいのを防ぐことができると思います。

対応（案）

- ・会場確保の都合上、来年度も今年度と同じ法文学部講義棟をメイン会場として開催を予定している。各プログラムの定員数の見直しを行い、会場の規模に応じた定員を設定することで空間に余裕を持たせることを検討する。
- ・2日目（シンポジウム実施の日）に、講義形式のプログラムを設け、受け入れ可能な人数を増やすことを検討する。

■研修時間・開始時刻について

- ・初日の朝出発すると、開催時間に間に合うかどうかという時間帯であったためもうすこし遅く始めると参加がしやすい。
- ・関西からの参加ですが、1日目の開始時刻をもう少し遅くしていただけると前泊の必要がないので、有り難いです。
- ・一つ一つのセミナーをもう少し時間をとって欲しかった。
- ・身に付けるためには少々時間が足りないので、もう少し（30分程度）時間を増やして欲しい。
- ・グループワークを組み込んでいたので同じグループの方とのディスカッションはすすんだが、他のグループの方とお話する時間が少なかったので、グループワークを取り入れている講座はもう少し時間が欲しかったと思う。

- ・全てのプログラムで参加者の方々と意見交換等を行える時間がほしかったです。
- ・グループワークやディスカッションのあるプログラムに参加したが、時間が足りないと感じた。ワークやグループディスカッションなどのあるプログラムは、2日目または3日目の9:00開始にする、2コマ連続にするなどして時間を確保する事を検討しても良いのではないか。
- ・ワークの時間をもっと増やしてほしい。他大学がどのように取り組んでいるのかを聞きたい。
- ・他校の取り組みはとても参考になったので、情報交換の時間が多いほうが良いと思った。

対応（案）

- ・講義開始時刻については過去の実績に基づき設定しているが、四国以外からの参加者も増加していることから、できる限り考慮して開始時刻の設定を検討する。
- ・講義時間については、グループワークのあるプログラムは時間が足りないとの意見が多く、講義時間を長くしたり講師の時間配分を調整してもらったりするなど工夫できるところがないか検討する。

■プログラムの申込について

- ・SPOD 加盟校の職員ではないからかもしれませんが、申込みが始まった直後に申し込んだプログラムの中でも受講できないものがありました。定員の拡大についてご検討いただけると幸いです。
- ・可能な申し込み時期でできるだけ早く申し込んだが、会員校でなかったため希望の講座に参加できなかった。
- ・SPOD 加盟校以外であっても、ある程度希望するプログラムを受講できる枠を確保しておいてほしい。（申込み日に既にいっぱいとなっているものが多かったため）
- ・四国のネットワークなので加盟大学優先は理解できるが、各講座に一般枠を設けられると、他地区からも参加しやすいのでは。加盟大学以外が申し込める段階で、既に満席はがっかりしてしまう。特にポスター発表者は、会場へ出向くことを決めているので、講座申込段階で意欲が減退してしまう。
- ・プログラムの空き状況が不明瞭でした。

対応（案）

- ・今回、加盟校限定の先行受付の段階では定員に達しなかったものの、一般受付開始後まもなく定員に達したプログラムもあった。今回は申込フォームのシステムの都合上、定員に達したプログラムの申込を締め切るまでにタイムラグが生じたため、申込フォームのシステム等を見直し、申込フォーム画面上で随時プログラムの空き状況を掲示したり、定員に達し次第自動的に申込を締め切ったりする等の対応を検討する。
- ・SPOD加盟校教職員は先行受付期間に申込ができるようになっており、期間内に申し込んだ加盟校の教職員はほぼ希望するプログラムを受講できるようになっている。ただ、近年加盟校外からの参加者も増加していることから、できる限り加盟校外の参加者も希望するプログラムを受講できるような工夫を検討する。
- ・キャンセル等により空きが生じたプログラムについて、二次募集を申込フォームで行う等の対応を検討する。
- ・「キャンセル等により空きが生じる可能性がある」旨、申込フォーム等に記載し事前に参加者にお知らせしておく。
- ・受講希望の多いプログラムについては、同内容のプログラムを2回実施するなどの対

応を検討する。

■シラバスについて

- ・講義を選ぶ時に見た資料の内容と、実際に行われた講義内容が、必ずしも一致していないものも、あったように思います。
- ・シラバスに記載する「対象者」や「内容」などをもっとハッキリとさせて欲しい。
- ・シラバスの内容をより具体的に。事前学習ができるようにデータの提供などを行う。

対応（案）

- ・講師の選考を早めに行い、講師の方々には講義内容を十分検討いただいた上でシラバスを作成していただき、シラバスに沿った研修の実施をお願いします。
- ・講師の方々にはシラバスに記載する受講対象を明確に設定していただき、受講者にわかりやすい表現で記載する等工夫する。
- ・受講対象外の方から申込があった場合の受入可否について、講師の方に事前確認しておく。
- ・講義形式中心のプログラムについては、シラバスに講義形式の旨記載するようにする。

■広報等について

- ・受講申し込み時点で締切のプログラムがあったので、受けられなかったプログラムの資料等でも良いのでWEB等で閲覧できれば嬉しいです。
- ・このアンケートについて、教育等についてすでに積極的に取組んできていて、今回のフォーラムでとくに意識や考え方が変わったわけではない場合の、適切な選択肢がない。また、これまでのフォーラムでの知見はすでに授業等に生かしているが、今回のフォーラムの知見についてはまだこれからのことだ、という場合に、「実際に活用している」との設問の回答がどちらのことかわからないなど、曖昧さが目立つ。一応回答したが、この結果がどのように利用されるのかを思うと、曖昧であり、今後もこのようなアンケートに協力できるかどうかはわからない。適切な設問の立て方と選択肢の設定をした方がよい。
- ・今年度参加者には来年度の案内をメールで送って下さい、四国以外の参加者です。

対応（案）

- ・フォーラム終了後、掲載許可を得たプログラムの資料についてはSPODホームページに掲載しているが、申込時点で参加者がわかるように申込フォーム等にその旨記載しておく。
- ・ご指摘いただいたアンケート項目については改善することを検討する。
- ・SPODフォーラムの広報については毎年6月頃に全国の高等教育機関にチラシを配布している他、各種メーリングリストにて案内をしているが、更なる周知のために前年度のフォーラム参加者に対して、案内メールを送ることを検討する。

■運営上の要望について

- ・各講師お勧めの本が展示販売されているといいのではないかと思います。
- ・四国外からの参加だったので土地勘がなく、愛媛大学の正門の場所がわからずかなり迷った。当日は、路面電車の最寄り駅から看板を設置していただけたらありがたい。
- ・名刺を切らしてしまう方が多かったので、プリントできる設備・対応する窓口があるといいと思います。

- ・県外の方がお土産を買う場所を探していたので、受付付近で販売されてはどうでしょうか。
- ・フォーラムの規模について、今回程度が適正であるように感じている。今年度が初参加であり、前回以前のことは分からないが、むやみやたらと拡大してフォーラムの質が低下することの無いように願いたい。

対応（案）

- ・会場までの案内板の設置場所や、参加者に事前に案内する地図の表現等を工夫する。
- ・関連書籍等の販売については、過去の実績も考慮しつつ実施の有無について検討する。
- ・お土産販売については、全体受付で参加者全員に配付したチラシにてご案内していたが、ご覧になっていなかった方もいたようなので周知方法を工夫する。
- ・名刺については、プリントできる設備等を用意することが難しいため、参加者への事前連絡の際に、参加者各自で名刺を多めに準備するよう依頼する。

■プログラム構成等について

- ・以前のように、もう少しFDプログラムがあっても良いのではないかなと思う
- ・講義形式で単純に情報・知識を増やすことを重視した授業がもう少しあってもいいと思う。
- ・個人的には、知識修得型（講義型）のプログラムがもう少し多ければ嬉しい。
- ・必要に応じて、シリーズものや事前事後学習を取り入れて密度の濃い授業としてはどうでしょうか。
- ・現在は単発プログラム（導入編）が主となっておりますが、同一テーマによる3日間の集中講義プログラム（『高等教育の動向』『教授方法』『研究支援業務』）を組んでいただければ幸いです。
- ・先進的な内容が次々に開講されていく一方で、いったん乗り遅れると参加者のレベルについていけない場面もあります。これまで参加していない者にとっては、ますます気後れすること考えられます。キャッチアップ講座のように、ざっと復習できる講座が時々入るのは、どうでしょう。今回、アクティブ・ラーニングの講座で、アクティブ・ラーニングに該当する授業方法を網羅してくださったのは、とても助けになりました。
- ・同じ講師が幾つもの講座を担当するのではなく、さらにバラエティに富んだ講師陣であれば、リピーターもさらに増えるのではないかなと思う。
- ・書画カメラ等の活用。A3判程度の大きさの紙にワークで書かれた内容がスクリーンに投影できれば、受講者全員に見えていいと思います。
- ・開講してほしいプログラムについては別紙のとおり。

対応（案）

- ・FD対象、SD対象、種々テーマのプログラムが偏りのないよう考慮して構成しているが、さらに受講者に満足いただけるよう、できる限り要望を考慮してプログラム構成について検討する。

《開講してほしいプログラムについて》

アクティブ・ラーニング関係

- ・ 色々なアクティブラーニングの手法とその教育効果について、IR の初級編・入門編の次のレベルの内容のもの。
- ・ 今まで同様定番メニューも有りながら新しいアクティブ・ラーニングの手法なども少しずつ増やしてほしい。
- ・ アクティブ・ラーニングの具体的手法・効果についての紹介と、その課題解決を討議するワークショップ
- ・ 様々なアクティブラーニング手法の実例を体験できるようなプログラム。
- ・ アクティブ・ラーニングを実際に授業に取り入れてみたが、ただアクティブにはなっただけで、必ずしも学びが深くなったわけではないように思うこともある。また、学問領域や授業の性質によって、適した技法が異なる気もする。このように、実際にアクティブ・ラーニングを導入した際に生ずる様々な問題の解決のヒントになるようなプログラムがあればと思います。
- ・ PBL の実践例、教材例。

IR関係

- ・ IR については非常に興味を持っています。また、研究倫理に関する話題があるとうれしいです。
- ・ 教学 IR は今後も継続的に取り上げて欲しい。
- ・ データベースの作成、活用
- ・ 統計学の入門編。3日間あるので、初歩から始めても、集中講義のように講義とワークを組み合わせれば、簡単な手法や概念は学べるのではないかと。それに、持ち帰ってすぐに使うことができる技術でもあるし、期間中先生に質問もできるので、かなり学習効果が高いと思う。

障がい学生、学生支援関係

- ・ 障がい学生への対応
- ・ 障害学生のインターンシップ受け入れについて
- ・ 「発達障害学生への対応」、「退学者減少への取組み」等はいかがでしょうか。
- ・ アスペルガーなど発達障害のある学生への対応
- ・ 「学習支援の方法」「発達障害学生の種類、対応ケースの事例報告」など
- ・ 学習支援の発展的なメニュー
- ・ 就職困難学生の対応、ロールプレーを交えた研修

国際関係

- ・ 欧米の大学教育の先進事例
- ・ 大学のグローバル化
- ・ 新規留学プログラムの開発について
- ・ 留学生への研修について
- ・ 学内のグローバル化のための取組事例

知識習得系

- ・ 大学経営・大学マネジメント・教育（大学）に関する世界や国の動向についての授業
- ・ 経営改善計画（中長期経営計画）の取り組みについて、特に、全学的に推進していくための体制作りについて。
- ・ 中教審答申などを含めた高等教育界の次の動向について“わかりやすく”我々は具体的

に何をしたい方がよさそうなのかをレクチャーしてもらいたい。

- ・ 自校教育について、基本を身につける教育、なども取り上げて欲しい
- ・ 高等教育の制度を正しく理解する講座。現場で望ましい対応をするためには、その基本を知っておかなければならない。特にブームで「〇〇を進めなければ」の前に、なぜ、そのようなことが求められるのか、が理解できないと場当たりの対応になってしまうため。基本は大事である。
- ・ 高等教育史、法令解釈に関するプログラムを開講して欲しい。
- ・ 高大接続改革について
- ・ 知的財産
- ・ ダイバーシティ関連

スキル習得系

- ・ 授業評価アンケートの設計
- ・ 授業スキルにつながるような内容のものがほしい。長年出ていると新しいプログラムはSDになりがちなので。
- ・ 英語での教授法
- ・ 事務の実践スキル（メール照会のしかた、共有フォルダの作成法など）
- ・ エクセル、ワード、パワーポイントの便利な機能や実践的な演習
- ・ FDに参加しない教員へ向けての情報発信方法や意識向上のためのスキル
- ・ ファシリテーションスキルについてプロから学ぶことのできるプログラム（1日ばかりでもよいので）
- ・ 学外活動の企画立案・運営など
- ・ プロジェクトマネジメント（ルーティン業務ではない単発の事業の進め方）等

スタッフ・ポートフォリオ関係

- ・ スタッフポートフォリオの作成プログラム
- ・ スタッフ・ポートフォリオ
- ・ メンター育成プログラム

その他

- ・ 授業コンサルティング導入にあたっての留意事項
- ・ モデル授業参観
- ・ 学生の能力差が大きいにもかかわらず、能力別クラスにできないケースが多いです。この問題に取り組んでいる方がおられるならば話を聴きたいと思います。
- ・ 体系的な大学職員アドミニストレーター研修
- ・ 職員研修プログラム（他校の事例を交え、どのような研修が大学職員にとって最適か考える）
- ・ 若手教職員を対象としたプログラムをもっと増やしてほしいと思います。
- ・ 男女共同参画に関わるプログラムがあってもいい気がします。
- ・ 教学中心の講座となっているので、法人系も取り入れてもらいたい。
- ・ インストラクショナル・デザイン
- ・ LMSについて、一般論・単なる事例紹介ではない講義があればと思います。
- ・ レディースワールドカフェ
- ・ 参加者の分野を緩やかに絞ったプログラム
- ・ 参加者の専門分野、校種をそろえたプログラム
- ・ 1H程度での同じテーマを持つ方々との意見交換ができるプログラムがあればいいと思う。
- ・ ビッグネームの方も良いが、深く考え実際に活動、仕事をしている実務者の生の声を聞きたい

SPOD将来構想ワーキンググループメンバー一覧

平成27年10月1日現在

大学名	所属	職名	氏名	区分
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	室長・教授	小林 直人	第3条第1号
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	教授	中井 俊樹	第3条第2号
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	講師	阿部 光伸	第3条第3号
高知大学	大学教育創造センター	准教授	立川 明	第3条第4号
徳島大学	総合教育センター	准教授	宮田 政徳	第3条第4号
香川大学	大学教育基盤センター	准教授	葛城 浩一	第3条第4号
愛媛大学	教育学生支援部	部長	吉田 一恵	第3条第5号
愛媛大学	教育学生支援部 教育企画課	課長	神 智彦	第3条第5号

「SPODフォーラム」四国地区各県持ち回り開催について（案）

平成 年 月 日
ネットワークコア運営協議会決定

1 SPODフォーラム持ち回りスケジュール

回	開催年度	開催県（当番大学等）	社会教育主事講習 当番校
1～3	平成21（2009）年度 ～23（2011）年度	愛媛県（愛媛大学）	—
4	平成24（2012）年度	徳島県（徳島大学）	愛媛大学
5	平成25（2013）年度	愛媛県（愛媛大学）	高知大学
6	平成26（2014）年度	高知県（高知大学・県内加盟大学等）	徳島大学
7	平成27（2015）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
8	平成28（2016）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
9	平成29（2017）年度	徳島県（徳島大学・県内加盟大学等）	高知大学
10	平成30（2018）年度	香川県（香川大学・県内加盟大学等）	徳島大学
11	平成31（2019）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
12	平成32（2020）年度	高知県（高知大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
13	平成33（2021）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	高知大学
14	平成34（2022）年度	香川県（香川大学・県内加盟大学等）	徳島大学
15	平成35（2023）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
16	平成36（2024）年度	徳島県（徳島大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
17	平成37（2025）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	高知大学

※社会教育主事講習の当番校とフォーラムの当番校が重なる場合には、会場及び運営スタッフの都合上、原則翌年度の開催大学と入れ替えて開催する。

2 SPODフォーラム実施体制等

（1）開催県内大学等との協働実施

当番大学及び開催県内大学等は、フォーラムの実施体制を強化するため、連携・協力し、フォーラムの開催準備、会場運営等を協働で行う。

（2）コア校教職員協働による会場運営

フォーラム当日の会場運営は、当番大学以外のコア校の教職員（1～2名程度）及びSPOD事務局が当番大学と協働で行う。

(別紙1－1)

平成27年度SPOD教職員能力開発経費 申請要領

【教職員能力開発経費とは】

今後のSPOD事業の充実を図るための、教職員の能力開発に係わる以下の経費。

研修参加旅費（研修料込み）

条件：平成27年12月9日以降に申込み可能で、平成28年3月6日までに完了する研修。

※研修参加後1ヶ月以内に、A4用紙1枚程度で報告書の提出をお願いします。

※旅費は、愛媛大学の規定に基づきお支払いいたします。

【対象者】

SPOD加盟校教職員（SPOD負担金算定根拠となる教職員に限る）

※対象者が不明の場合はSPOD事務局（spod@stu.ehime-u.ac.jp）までお問い合わせください。

【申請締切】

平成27年11月30日（月）17:00

【申請方法】

別紙「SPOD教職員能力開発経費申請書」に必要事項をご記入の上、メールにてSPOD事務局（spod@stu.ehime-u.ac.jp）までお申込みください。その際、件名は「SPOD教職員能力開発経費申請（ご所属：お名前）」としてください。

【結果通知】

結果の如何を問わず、平成27年12月7日（月）（予定）までに、申請者にご連絡いたします。

【その他留意事項】

希望者多数の場合は、事務局において優先順位をつけ対象者を選考いたします。

優先順位（予定）

1. 平成27年度において、SPOD内講師派遣事業、ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ、SPODフォーラム、その他SPOD主催等のFD／SDプログラムの講師をお務めいただいた方
2. 上記以外のSPOD加盟校教職員

平成27年度SPOD教職員能力開発経費 申請書

機関名・所属		職名	
氏名			
Mail		電話	

1. 研修参加旅費(研修料込み)等概要

第1希望	研修等名			
	研修等概要			
	今回の研修がSPOD事業に資する理由 今後のSPOD事業実施にあたり、参考となる理由を記載してください	例：研修内容や実施体制を確認し、SPOD講師派遣プログラム実施時の参考とする。 研修に参加し新たな情報を得ることで、次年度以降のSPODプログラムの開発や、フォーラム運営時の参考とする。		
	開催日程	平成 年 月 日()〇時 ～ 平成 年 月 日()〇時		
	希望旅程	平成 年 月 日() ～ 平成 年 月 日()		
	開催地	例)東京都〇〇区〇－〇		
	交通手段	例)自宅(〇〇市)～〇〇駅:JR → 空港バス → 航空機:〇〇空港～〇〇空港 → 空港バス・市内バス → 研修地		
	見積額 (概算)	交通費	(円)	
		研修料	(円)	
第2希望	研修名			
	研修概要			
	今回の研修がSPOD事業に資する理由 今後のSPOD事業実施にあたり、参考となる理由を記載してください	例：研修内容や実施体制を確認し、SPOD講師派遣プログラム実施時の参考とする。 研修に参加し新たな情報を得ることで、次年度以降のSPODプログラムの開発や、フォーラム運営時の参考とする。		
	開催日程	平成 年 月 日()〇時 ～ 平成 年 月 日()〇時		
	希望旅程	平成 年 月 日() ～ 平成 年 月 日()		
	開催地	例)東京都〇〇区〇－〇		
	交通手段	例)自宅(〇〇市)～〇〇駅:JR → 空港バス → 航空機:〇〇空港～〇〇空港 → 空港バス・市内バス → 研修地		
	見積額 (概算)	交通費	(円)	
		研修料	(円)	

※研修内容の分かるチラシ等を添えて申請してください。

2. SPOD研修講師について(いずれかにチェックをお願いします。)

平成27年度中にSPOD研修(講師派遣、SPODフォーラム、ティーチングポートフォリオ作成WS、大学人・社会人養成プログラム、その他各種FD／SDプログラムの

- ☐ 講師等を担当した(担当する予定である)
- ☐ 講師等を担当していない

(別紙2－1)

平成27年度SPOD研修物品費 申請要領

【研修物品費補助とは】

今後のSPOD事業の充実を図るための、SPOD加盟校で開催される教職員の能力開発に係わる研修・セミナー（以下研修等という）の実施にかかる以下の経費。

物品等購入補助

必要物品等の購入に係る補助。原則、愛媛大学において物品を購入、送付することとなります。

【補助条件】

1. 平成27年12月16日(水)～平成28年3月31日(木)まで実施される教職員の能力開発を目的とした研修等であること。
2. SPOD加盟校に開放される研修等であること。また、その旨を実施要項等に明記の上、SPOD事務局まで送付すること。ただし、研修プログラムガイド2015（P17～P63）に記載されたSPOD加盟校開放プログラムの場合は実施要項の送付は不要とする。

【対象機関】

SPOD加盟校

【申請締切】

平成27年11月30日（月）17:00

【申請方法】

別紙2－2をご記入の上、メールにてSPOD事務局（spod@stu.ehime-u.ac.jp）までお申込みください。その際、件名は「SPOD研修物品費申請（大学名）」としてください。

【結果通知】

結果の如何を問わず、平成27年12月7日（月）（予定）までに、申請機関にご連絡いたします。

【その他留意事項】

申請多数の場合は、事務局において優先順位をつけ対象研修を選考いたします。

優先順位（予定）

1. 研修プログラムガイド2015（P17～P63）に記載されたSPOD加盟校開放プログラム
2. 上記以外のSPODに開放されるプログラム

平成27年度SPOD研修物品費 申請書

事務 担当者	機関名 所属		氏名	
	Mail		電話	

第一希望	物品名		品番	
	数量		金額	
	利用目的			
第二希望	物品名		品番	
	数量		金額	
	利用目的			
第三希望	物品名		品番	
	数量		金額	
	利用目的			
記入例	物品名	パワーポイント対応 レーザーポインタ	品番	●●●●
	数量	1	金額	●●●●円
	利用目的	●月●日開催の●●研修の講義中に利用		
記入例	物品名	●● サインペン 太字 8色	品番	●●●●
	数量	8	金額	●●●●円(1セットあたり)
	利用目的	●月●日開催の●●研修のグループワークに利用		

注) 同等の別商品の購入となる場合がありますのでご承知おきください。原則、愛媛大学において物品を購入、送付することとなります。

実施要項を添えて提出してください(研修プログラムガイド2015P17～63に記載のプログラムについては提出不要)

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

ジャンル	No.	プログラム名	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南 高専	H27新規	H27開催数
コンサルテーション	1	SPOD課題発見コンサルテーション ※ 加配後へ向けてFDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等、加配後の課題に合わせて内容、形態とも柔軟に対応します。	徳島県内担当	香川県内担当	愛媛県内担当	高知県内担当			
	2	学生の学びを促すシラバスの書き方	宮田 吉田川瀬	葛城	小林,仲道	塩崎,立川,俣野			1
	3	グラフィック・シラバスの作成方法	宮田			立川			
授業改善・ 教授法	4	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～			仲道				1
	5	学生の学び意欲を引き出す授業とは？	川瀬			塩崎,立川,俣野			1
	6	大人数講義を魅力的にするテクニック	川野	葛城,佐藤	小林				
	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン				俣野			
	8	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方			小林	塩崎,立川,俣野			
	9	大学版反転授業:TBL(チーム基盤型学習)という授業方法				立川			
	10	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～			仲道			新規	2
	11	ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方			村田			新規	
	12	効果的なeラーニングの活用方法			仲道				1
	13	基礎から学ぶ学習評価法	宮田 川瀬	佐藤		塩崎,俣野			
プログラム開発	14	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り				立川		新規	3
	16	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～			小林忠,加地	塩崎,立川,俣野			
	17	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～			小林,清水				1
高専向け	18	高専生を元気にする学生指導法のコツ					坪井		
	19	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～					坪井		
	20	事例から見た 学生・保護者から信頼される高専教育					坪井		1
業務改善	21	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート					坪井	新規	1
	22	大学職員のための企画力養成講座			阿部,仲道,清水,丸山				
	23	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座			阿部,仲道,清水,丸山				
	24	インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した企画・立案マネジメント			仲道			新規	1
	25	教職員のためのPowerPoint ～30分でマスターするPPT,プレゼン資料からポスター作成まで～				立川		新規	1
	26	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方,組み立て方～				立川		新規	1
	27	コーディネート力養成講座			仲道			新規	1
	28	プロジェクト・マネジメント入門			丸山,仲道				1
	15	マインドマップ入門講座(3時間) ※授業改善・教授法から移動				俣野			
	新規	大学組織を理解する			中井				
人材育成・ 人事制度	新規	後輩の成長を促すコーチング			小林忠,清水				
	新規	円滑な会議運営のためのファシリテーション入門			清水,小林忠				
	新規	リーダーシップ入門			村田,丸山				
	新規	チームビルディング			村田				
	新規	身近なデータを活用した教育改善			清水,加地				
	29	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～			阿部,清水,丸山				
	30	持続可能なSDプログラムの開発手法			阿部,丸山				
	31	人事人材育成ビジョンの必要性			阿部,丸山				
	32	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	吉田	葛城,佐藤					1
	新規	学生の主体性を促す学習支援			清水				
危機管理 事例紹介	33	事例から考えるハラスメント			阿部, 清水, 吉田, 猪野, 倉田			新規	3
	34	学生が輝くFDの実践事例			小林	塩崎,立川,俣野			1

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
授業改善・教授法	1	SPOD課題発見コンサルテーション	コンサルティング	FD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等を行いながら当該組織においてFD・SDを効果的に進めるためのコンサルティングを行います。FD・SDに取り組んでいるがマンネリ化してきた、担当者が行き詰っているなどの課題がある場合に最適なプログラムです。教職員全員を対象とせず、管理職やFD・SD担当者等と小規模のディスカッション形式で実施します。
	2	学生の学びを促すシラバスの書き方	シラバス、(教授法、評価)	シラバスは、授業デザインの基礎であり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには、様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザイン力も必要となります。本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業のヒントを持ち帰っていただくため、シラバスの定義、目的・目標の設定、授業内容、スケジュールのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、学生の時間外学習を促す事例も紹介します。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
				シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところが、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいないのも事実です。たとえば、学生が読んだとしても、教員が持つ背景知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。
	3	グラフィック・シラバスの作成方法	シラバス、(教授法、評価)	グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことによって、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができます。また教員は、これを通して、自らの授業内容やキーワードを精選し、構造を明確化し、より円滑な流れで授業の再構成を行うことができます。
	4	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門～ARCS動機づけモデルの活用～	授業設計、動機づけ、学習理論	本プログラムでは、グラフィック・シラバスの意義や特徴を簡単に説明した上で、参加者全員が自らの授業についてグラフィック・シラバスを書く個人ワークに取り組みます。ペア・ワークによるブラッシュアップを経て、再度、個人ワークに取り組みます。参加者は担当している授業のうち、どれか一つのシラバスを持参ください。
	5	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	教授法、動機づけ	やる気(学ぶ意欲)は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。
	6	大人数講義を魅力的にするテクニック	教授法、講義法	「よい」講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する(した気にさせる)講義、ということになります。本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。また大人数講義でも取り入れることが可能な、簡単な参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。
	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	教授法、グループ学習	“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
授業改善・教授法	8	学生が動く・変わる・生き活きる グループワークの進め方	教授法、グループ学習	グループワークを取り入れた参加型授業形式を取り入れる大学教員が増えています。一方、グループ毎に取組みに差が生じる、グループ内での作業に個人ごとの偏りがあるなど、実施にあたっては課題もあります。本プログラムでは、様々なグループワークの事例を紹介しながら、上手な進め方や成功するためのコツを学びます。参加者は実際にグループワークを体験しながら学習することができます。受講後は、現状よりも活発なしかけができるようになることを目指します。
	9	大学版反転授業：TBL（チーム基盤型学習）という授業方法	教授法、グループ学習	教えるも教えなくても成績が上がらない。そんな悩みはありませんか？ TBL：チーム基盤型学習には次のような特徴があります。正しい知識をたくさん身につけてもらいたい授業に最適です。グループワークで授業を進めるのに、20 チームあっても教員1人で回せます。協同学習の要素を取り入れた仕掛けがあるため失敗しにくく、グループワークの経験が少ない教員でも無理なく導入できます。予習が前提で、単位の実質化ができます。何より受講生が元氣になり、グループワークのための様々な能力を目覚めさせます。こんな授業を一度体験してみませんか？
	10	学生の学びやすさと学習意欲を高める 授業設計 ～課題分析図の活用～	授業設計、課題分析図	学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学習目標で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるか」といのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に、教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通して、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。
	11	ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方	教授法、グループ学習	社会心理学者K. レヴィンをはじめとした集団力学を専門とする研究者たちによってこれまで種々実証されてきたように、グループワークは、受講者が学習に対する積極的な姿勢を抱けるよう変化を促すのに有効な手法として注目されてきました。とりわけ同手法は近年、学校教育の場で広く導入されつつあることは周知のとおりです。しかし、一言で「グループワーク」とはいっても、その実践方法は玉石混濁であるのが実態です。そこで本講では、それら数ある手法のうち、高い効果が得られるとして良く知られているやり方の一つを体験して頂ければと考えております。これは、社会心理学者E. アロンソンが1978年著書The Jigsaw Classroom（松山安雄訳）ジグソー学級 生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方の中で提唱した「ジグソー学習法」なるもので、この学習法を用いた授業の進め方とその効果を皆さまに紹介することを本プログラムの主たる目的としております。
	12	効果的なeラーニングの活用方法	教授法、eラーニング	高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみよう」「eラーニングをどのように活用することが有効なのかを知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかわからない」などという方に対して、実際に授業で活用されている様々なeラーニング事例を紹介するとともに、ワークシヨップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。
	13	基礎から学ぶ学習評価法	学習評価	本プログラムでは、学習評価の基礎知識である、学習評価の原則、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のための評価ツール、について学びます。これまでの自己の学習評価方法を見直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
	14	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	授業法、講義法	多くの学生は授業を聴くつもりで教室に集まっているわけではありません。まして授業に参加するつもりで来てはいません。そのようなアウェインな状況を一瞬で変えられたら先生も気持ちよく授業ができると思いませんか？多くの受講生は、授業内容にまったく関心がないわけではありません。でも難しい話を一方的に続けられればいらがんばって疲れてしまします。そんなどよりムードを一瞬で打ち払って明るくできたら良いと思いませんか？そんなテクニク：授業の最初にすべきこと、大事なことが伝わっているか確認する方法、全員の意見分布を知る方法について具体的に紹介します。また、それらの方法がなぜ、うまく行くのか、基本的考え方を紹介します。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
プログラム開発	16	授業アンケートを見直しませんか？ ～アンケートの効果的実施と活用方法～	授業アンケート	授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えていきます。開催校のアンケートを持参いただければ、項目の検討を行うワークを入れることができます。
	17	ティーチャング・ポートフォリオ入門 ～教育実践のリフレクション～	ティーチャング・ポートフォリオ	本プログラムでは、ティーチャング・ポートフォリオとは何かについて基本的な内容を学んでいきます。具体的には、ティーチャング・ポートフォリオが、教育改善や教育業績評価にいかなる点で役立つかといった必要性と有効性について、また、ティーチャング・ポートフォリオ作成のための要点と手順について学ぶ機会を設けています。ティーチャング・ポートフォリオ作成ワークショップへ参加予定の先生方は事前準備として活用いただけます。
	18	高専生を元気にする学生指導法のコツ	高専、学生指導	成長途上の学生へのサポートでは、人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ、その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で、学校の教育指針と一致しないことも少なくありません。一方、教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも、学生はサポートを必要としています。本プログラムは、高専の教育現場で起きている事例について、どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか、グループワークによるケーススタディを中心に検討し、広範な学生サポート力の獲得に資するよう展開します。
高専向け	19	担任教員に求められること ～担任スキル開発ワーク～	高専、学生指導	心の揺らいでいる学生に、まず寄り添うのは、担任教員です。担任教員は、学生サポートのために次のことを始めとすると様々なスキル(意識、知識と能力)を求められます。担任教員に必要な基礎的スキルを整理して時系列に整理することにより、教員団の教育力向上に資することを目指します。 数年の担任経験を有し、担任スキルの高度化と共有、校内での教育連携の必要性を感じている教員を対象とするワークです。 ・学生との接し方・自殺や不登校 いじめのサイン・教育連携の方法・保護者対応・奨学金 ・休学時の手続き・授業料納付期限、除籍・高等学校卒業程度認定試験・ハラスメント・危機管理フロー
	20	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	高専、教育経営	学校教育の不調は、時に、強いクレームや裁判として顕在化します。教育活動そのものに問題がある場合、教育活動への理解を得られない場合など様々ですが、いずれも学生・保護者から学校および教員が信頼を得られていないことが最大の要因の一つです。裁判事例をふまえて先行研究を参照しつつ、教育現場の観点から信頼される高専教育のあり方を確認します。あわせて、各高専において、信頼される教育活動を全学的に行うための検証・支援方法について考えましょう。
	21	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	教授法、動機づけ	アクティブ・ラーニングは有効な学習形態ですが、そのためには学生のモチベーションが欠かせません。本プログラムは、内発的動機づけをサポートして学生の学習活動を活性化する方法を紹介し、グループによるミニワークで確認します。 取り上げるのは、「アブローチャーク、個人名空間、肯定的フィードバック、Think-Pair-Share、クラスルームコントロール、問いかけ、回答への対応、Illusion of choice、ラウンド意見交換」などです。
	22	大学職員のための企画力養成講座	企画力、プレゼンテーション力	大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。本プログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実際に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいのか、提案したら良いのか分からない職員の方もご参加ください。
	23	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	判断力・決断力、ディベート	判断・決断は上司や役職者だけが行うものだと思っていませんか。実は、若手・中堅職員においても、業務の中で、判断・決断を下さなければならぬ場面は多々あります。 あなたはそのように判断・決断を行っていますか？そもそも、判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っている信頼を失います。また一方で、決定しやすすい判断が良い判断とは限りません。 このように、本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、実践トレーニングを行うことで参加者の皆さんの判断力・決断力スキルの向上を図ります。 当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
業務改善	24	インストラクショナル・デザイン (ID／教育設計) を活用した企画・立案マネジメント	企画立案マネジメント、現状分析	本プログラムでは、問題解決手法であるインストラクショナル・デザイン (ID／教育設計) を理解し、その後、ワークショップ形式にて、自身の業務実践の場に活かせる業務の効率化や課題解決に向けた方策が見出せるようにすることを目指します。まず、自身の大学で業務や教育の改善・改革を推進したいと考えている事例を取り上げるところからはじめ、一般的に改革を推進する上で、ポイントとなる現状分析を丁寧に行います。次に、目標とのギャップを明確に認識し、ゴールに向けて方略・戦略をデザインするための方法論を学び、改革の一端を担う際の効果的な思考を身につけます。
	25	教職員のためのPowerPoint ～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～	PowerPoint	新しいアプリケーションの使い方を一から覚えるのはおっくうです。でも、30分でマスターできるとしたら？ PowerPointでは、スライド資料を作成する他、縦型のポスターやチラシも作成することが可能です。授業でプレゼンウェアを使いたい教員はもちろん、業務でポスターやチラシ、ポスター紙などを書かなければならない職員の皆さんも、使い方を覚えようと意外に便利です。この際、30分でマスターしちゃいましょう！ ＊PPT実習ほんとに30分！　アイスブレイキング、見やすい資料作成のコツ(レクチャー)、PPT資料のプロジェクト出力、ふりかえり等計2時間程度のプログラムです。
	26	教職員のためのプレゼンテーション ～説得力のある話し方、組み立て方～	プレゼンテーション	あの人の話し方は分かりますよな～ あんなふうに話せたらいいよな～と思うことはありませんか？　本当に分かりますか？　話す必要があるのでしょうか？　実は話し方や雰囲気を感じ方がずいぶん変わるものです。授業に限らず人前で話したり会話する機会に好感が持たれ、聞いてもらえる話し方を身につけましょう。そのためには呼吸法と発声法、そして話し方の組み立て方が重要です。ちよとやってみましょう！
	27	コーディネーター力養成講座	合意形成、調整、ゴール設定	仕事におけるコーディネーターとは、何をどのようにすることなのか。目標達成のために部局や立場を超えて、必要なスキルや能力を備えた人を集めるだけでなく、チームの中で異なる分野(領域)・個々の利害による関係性を調整し、全体の合意を形成し、向かうべき目標・ゴールまで着実に誘導していくこと、これが仕事におけるコーディネーター力です。職場におけるコーディネーターという役割は、物理的なシステムでは解決できない、人にしか担当できない仕事と言えます。 本ワークショップでは、グループワーク等を通じて、チームの各メンバーが持つアイデアや意見、情報をうまく引き出し、まとめ、一つの目標達成に向かえるようにするまでのコーディネーター力の実践とコツについて、学んでいただけたらと思います。
業務改善	28	プロジェクト・マネジメント入門	計画立案、進捗管理	プロジェクトを成功させるためには何が必要か、その基本となる方法論やプロセスを習得することを目指します。 様々な規模のプロジェクトが存在する中、日々の日常的な業務の効率化を図るツールとしても活用できます。プロジェクトを成り行きに任せるのではなく、しっかりコントロールすること、及び終了後のフィードバックの重要性を学びます。部署内、及び部署を横断したプロジェクトが増えていくなか、最終的には、プロジェクトマネジメントを職場で実際に適用するためのポイントを説明できるようにすることを目標としています。
	15	マインドマップ入門講座　(3時間) ※授業改善・教授法から移動	思考法、(教授法)	マインドマップは、Tony Buzanによって開発された思考手法・ノート術で、記憶力・理解力・集力・創造的思考力・問題解決力などの様々な能力を高めるとされています。イメージと連想をもとに放射状に思考を広げるところに特徴があり、ビジネスや教育現場において注目されています。 本プログラムは、実際に頭と手を動かしながらMind Mappingを体験することを通して、参加者自身の日々の実践へのヒントを持ち帰ることを目的として実施されます。
	新規	大学組織を理解する	組織論、大学の組織文化、リーダーシップ	学長が右を向けと言ったら、各学部や教職員は右を向くのでしょうか。右を向かないとしたら、右を向くようになつた方がよいのでしょうか。大学という組織は、大学以外の組織と異なるとよく言われます。大学組織は他の組織とどのような点で異なるのでしょうか。近年の大学改革では、大学のカバナンスのあり方についても議論がなされています。大学のカバナンスを理解することが難しい一つの理由は、法体系に基づく運営体制と歴史的な慣行が異なる場合があるからです。 本研修では、大学という組織がどのような論理で動いているのかについて深く理解する機会をつくります。大学組織の論理を理解した上で、実際の組織運営に応用する力を身につけます。さらに、大学のカバナンス改革が大学の組織の論理をどのように変えようとしているのかについても展望します。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
業務改善	新規	後輩の成長を促すコーチング	コーチング、後輩指導、コミュニケーション	職場には、先輩が後輩を個別に指導するさまざまな場面があります。そのような場面では、先輩が後輩に答えを提示することもできます。しかし、それでは後輩の成長を期待することではできません。後輩の成長を促す指導をするうえで役に立つのが、コーチングです。コーチングは、人材開発の一つの技法で、相手の目標達成を促すためのです。相手に答えを提示するのではなく、コミュニケーションをとおして相手のもつ答えを引き出す点に特徴があります。本プログラムでは、コーチングの理論やさまざまなスキルについて学習します。職場での具体的な事例をもとに、コーチングのさまざまなスキルを理解し、職場で活用できるようになることを目指します。また、コーチングのスキルは、学生を指導するうえでも役に立つものです。
	新規	円滑な会議運営のためのファシリテーション入門	会議運営、職場	会議やミーティングで、“意見が出てこない”、“一部の人がばかり発言している”、“今日の会議は無駄だった”と感じた経験はありませんか？このような不満の解決方策としてファシリテーションがあります。ファシリテーションとは、会議、組織運営や教育の場で問題解決や合意形成、アイデアの創造などを促す活動全般を指します。このプログラムでは、会議やミーティングの場面でのファシリテーション・スキルの習得を目指します。具体的には会議やミーティングでの場づくり、コミュニケーションの取り方、合意形成や情報の共有化について学習します。
業務改善	新規	リーダーシップ入門	組織運営、リーダーシップ	どのような組織においても、数々のミッションやタスクを効率良く果たしていくためには、当該組織を円滑に機能させ、その有効性を増す仕方でリーダーシップを発揮する人の存在が欠かせません。このようなリーダーシップは学習や実践によって体得することが可能です。本プログラムでは、まずリーダーシップに関する基礎的知識を概観し、その後、それらを実際の職場においてどのように応用・適用することができるかについて、受講者同士のグループワーク、ディスカッション等を通じて検討することを目的とします。
業務改善	新規	チームビルディング	組織づくり、目標、目的の共有	日々の諸業務を果たす各部署において、また組織横断的な種々のプロジェクト等において円滑な協働を実現するためには、コミュニケーションの促進やリーダーシップの発揮など様々なアプローチが必要となります。なかでも、チームや組織をどのようにキックオフするか、即ち、メンバー間でミッション・ビジョン・ゴール、目標や目的の達成方法等を如何様に設定・共有するかは、メンバーのモチベーションや組織の有効性に大きな影響を与えます。本プログラムでは、チームビルディングに関連した理論を簡潔に学ぶと共に、受講者各自が所属する組織的背景を念頭に、どのようなチームビルディングを実践できるか、具体的なプランを策定することを目的とします。
業務改善	新規	身近なデータを活用した教育改善	教学IR、学内データ、教育改善	学長のリーダーシップを中心とする組織運営および経営強化の要請を背景として、IR(Institutional Research: 機関調査)の重要性が認識され始めています。IRは「機関の政策立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる調査研究」と言われています。本プログラムでは、教育改善に資するデータの収集と分析を可能にする教学IRを取り上げます。まず、教学IRとはどのような活動なのかを共有します。その後、ワークとディスカッションを通じて、身近にある学内データを用いた教育改善について考えます。
人材育成・人事制度	29	スタッフ・ポートフォリオ入門 ～職員と大学が共に輝くために～	自己理解、メンタリング、業務整理	スタッフ・ポートフォリオとは、職員自らがキャリア形成を図れ、組織としてはこれにより職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるとのことで、本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの詳しい定義やその有益性を説明した後、SPOD-SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の声を聞き、実践例を示します。スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのでしょうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるのでしょうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのでしょうか。作成する場合に必要なこととは何でしょうか。このような疑問を一つずつ解決できるように本プログラムとなっています。
	30	持続可能なSDプログラムの開発手法	SDプログラム開発	SDとは事務系職員の能力開発活動であり、人材開発から始まって、組織の活性化、組織の業績向上、最終的には大学等の特性として地域の活性化と結びついていくものです。SDには、職場の中で仕事に就きながら仕事に即して教育するOJT(職場内教育)と職場から一定期間離れてまとまった教育をするOFF-JT(職場外教育)があり、意図的、計画的、持続的に実施しなければならない。本プログラムはそのプログラム開発のための手法を学ぶ作業を行います。
	31	人事人材育成ビジョンの必要性	人材育成ビジョン	本プログラムは、SPODに加盟する各大学の人事・人材開発の担当職員に対して、各大学にふさわしい人事マネジメントシステムを効果的に機能させ、職員一人ひとりが優れた人材に育っていくための基本的な人材育成ビジョン開発の手法を理解することができま

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
学 生 支 援	32	学生の自立を促す学生支援の実践とコ ツ	学生支援	校内での学生活動の中心となるリーダー育成や学生同士によるピア・サポートが新たな学生支援として注目を浴びています。四国内でもそのような取り組みが盛んにおこなわれており、それらの事例と教職員がどのように関与していけば良いのかの紹介を複数大学の事例紹介を織り交ぜながら進めます。必要に応じ、取り組みに関与している学生の生の声も聞けるようにいたします。教職員だけでなく、学生を巻き込んだ総合的な研修となっています。
	新規	学生の主体性を促す学習支援	学習支援、事例紹介	学生たちの主体的な学びを促進するために、私たち教職員は授業や日常の大学生活の中で様々な支援を行っています。たとえば、予・復習、参考書や有益な情報の提供、学習に関わる助言、あるいは学習支援のための施設整備などです。このような支援では、学生の現状や抱える課題に沿った方法、対応が求められます。本プログラムでは、国内の学習支援の現状と他大学の実践事例を紹介した後、所属大学の学習支援に関する現状や課題を参加者間で共有し、実施可能な学習支援の方法について考えていきます。
危機管理	33	事例から考えるハラスメント	ハラスメント事例、施策	本プログラムでは、大学等において、今、身近にあるハラスメントについて説明すると共に、なぜハラスメントが無くならないのか問題提起します。そして複雑かつ多様化するハラスメントについて、具体的事例を挙げながら、「ケースメソッド」により省察し、①ハラスメント認定のポイント、②ハラスメントが起きた場合の対処方法、③ハラスメント「施策」を導きだしていきます。
事例紹介	34	学生が輝くFDの実践事例	FD実践事例	本プログラムでは、FDの意義・定義、歴史・国際動向、FDの取り組み事例、推進する上でのコツを説明します。また国内外の優れた取り組み事例、組織体制を紹介します。希望に応じて所属機関のFDに関するコンサルティングやニーズ分析を行います。本格的なFDの取り組みはこれからという導入時期に最適なプログラムです。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査

学校名:

SPOD共通事業であるSPOD内講師派遣事業をご利用いただくにあたり、各加盟校におけるFD／SD活動への基本方針を考慮した上で、講師派遣を希望するプログラムを裏面の表からお選びください。各加盟校から回答をいただいた後、コア校で講師を調整の上、決定プログラムを連絡します。

留意事項

- ・各加盟校につき、1回1プログラムの実施とします。ただし、1法人に複数大学・短期大学・短期大学部が併設されている場合は1法人あたり1回とします。(高等専門学校除く)
- ・希望プログラムの選定については、可能な限り、FD及びSD担当で調整の上提出してください。
- ・実施内容の詳細については、プログラム決定後、担当講師に直接ご相談いただくこととなります。

(1)[経緯] 第1希望(裏面)のプログラムを選択するに至った、貴組織の背景、状況(主催者の意図)等をお知らせください。

(2)[目的／目標] 今回の研修の目的／目標はどのようなものでしょうか？

(3)[参加者] 参加者はどのような方々(専門分野、経験、役職等)で、何名ほどの参加(全員必修か希望者のみの参加かを含む)を見込んでいますか？

例) 新任教員 ○名程度(原則必須参加)、中堅職員 ○名程度(希望者のみ)、全教職員 ○名程度(原則必須参加)

(4)[今後の計画] 貴組織において今後どのようにFD及びSD活動を進めていく予定かお教えてください。

(FD)

(SD)

→裏面へ続く

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査

学校名:

- (5) 講師派遣を希望するプログラムを3つ選び、希望順位(1～3の番号)を付して記載してください。
原則として第1希望での派遣を実施いたしますが、多大学が同一プログラムを希望した場合は調整させていただきます。

ジャンル	キーワード	No.	プログラム名	形態	希望順位
	コンサルティング	1	SPOD課題発見コンサルテーション ※ 加盟校へ訪問してのFD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等、加盟校の実態に合わせて内容、形態とも柔軟に対応します。	相談の上、決定	
授業改善・ 教授法	シラバス、(教授法、評価)	2	学生の学びを促すシラバスの書き方	講義、ミニワーク	
	シラバス、(教授法、評価)	3	グラフィック・シラバスの作成方法	講義、ミニワーク	
	授業設計、動機づけ、 学習理論	4	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～	講義、ミニワーク	
	教授法、動機づけ	5	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	講義、ミニワーク	
	教授法、講義法	6	大人数講義を魅力的にするテクニック	講義、ミニワーク	
	教授法、グループ学習	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	講義、ミニワーク	
	教授法、グループ学習	8	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方	講義、ミニワーク	
	教授法、グループ学習	9	大学版反転授業：TBL(チーム基盤型学習)という授業方法	講義、ミニワーク	
	授業設計、課題分析図	10	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～	講義、ミニワーク	
	教授法、グループ学習	11	ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方	講義、ミニワーク	
	教授法、eラーニング	12	効果的なeラーニングの活用方法	講義、ミニワーク	
	学習評価	13	基礎から学ぶ学習評価法	講義、ミニワーク	
	教授法、講義法	14	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	講義、ミニワーク	
プログラム開 発	授業アンケート	16	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～	講義、ミニワーク	
	ティーチング・ポートフォリオ	17	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	講義、ミニワーク	
高専向け	高専、学生指導	18	高専生を元気にする学生指導法のコツ	講義、ミニワーク	
	高専、学生指導	19	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～	講義、ミニワーク	
	高専、教育経営	20	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	講義、ミニワーク	
	授業法、動機づけ	21	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	講義、ミニワーク	
業務改善	企画力、プレゼンテーション力	22	大学職員のための企画力養成講座	講義、ミニワーク	
	判断力・決断力、ディベート	23	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	講義、ミニワーク	
	企画立案マネジメント、現状分析	24	インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した企画・立案マネジメント	講義、ミニワーク	
	PowerPoint	25	教職員のためのPowerPoint～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～	講義、ミニワーク	
	プレゼンテーション	26	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方、組み立て方～	講義、ミニワーク	
	合意形成、調整、ゴール設定	27	コーディネート力養成講座	講義、ミニワーク	
	計画立案、進捗管理	28	プロジェクト・マネジメント入門	講義、ミニワーク	
	思考法、(教授法)	15	マインドマップ入門講座(3時間)	講義、ミニワーク	
	組織論、大学の組織文化、 リーダーシップ	新規	大学組織を理解する	講義、ミニワーク	
	コーチング、後輩指導、 コミュニケーション	新規	後輩の成長を促すコーチング	講義、ミニワーク	
	会議運営、職場	新規	円滑な会議運営のためのファシリテーション入門	講義、ミニワーク	
	組織運営、リーダーシップ	新規	リーダーシップ入門	講義、ミニワーク	
	組織づくり、目標・目的の共有	新規	チームビルディング	講義、ミニワーク	
	教学IR、学内データ、教育改善	新規	身近なデータを活用した教育改善	講義、ミニワーク	
人材育成・ 人事制度	自己理解、メンタリング、 業務整理	29	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	講義、ミニワーク	
	SDプログラム開発	30	持続可能なSDプログラムの開発手法	講義、ミニワーク	
	人材育成ビジョン	31	人事人材育成ビジョンの必要性	講義、ミニワーク	
学生支援	学生支援	32	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	講義、ミニワーク	
	学習支援、事例紹介	新規	学生の主体性を促す学習支援	講義、ミニワーク	
危機管理	ハラスメント事例、施策	33	事例から考えるハラスメント	講義、ミニワーク	
事例紹介	FD実践事例	34	学生が輝くFDの実践事例	講義	

研修プログラム実施状況(平成27年度)

平成27年11月9日現在

日 程	プログラム名	開催大学	対象	受講者数			内訳人数			参加校数 (開催校以外)	
				対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔
4月											
4月6日(月)	会議マネジメント ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD	26	0	26	25	1	0	1	
4月6日(月)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－ ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	3	0	3	3	0	0	2	
4月7日(火)	学生を眠らせない講義法のコツ ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	8	0	8	7	1	0	1	
4月7日(火)	効果的なグループワークの進め方 ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD	16	8	24	24	0	0		2
5月											
5月13日(水)～15日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム レベルⅠ (新任教職員研修)	香川大学	SD	43	0	43	0	43	0	7	
5月21日(木)～23日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	徳島大学	SD	15	0	15	0	15	0	9	
5月22日(金)～23日(土)	大学マネジメントセミナー	徳島大学	FD/SD	34	0	34	4	30	0	5	
5月25日(月)	クリックカーで教育・研究が変わる！	香川大学	FD/SD	7	0	7	5	2	0		
6月											
6月25日(木)～26日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム 見直しワークショップ	愛媛大学	SD	14	0	14	0	14	0	8	
6月18日(木)～19日(金)	職員のための講師養成講座(第1回)「総論」	愛媛大学	SD	12	0	12	0	12	0	3	
6月20日(土)～21日(日)	授業設計ワークショップ	徳島大学	FD	43	0	43	43	0	0	3	
7月											
7月4日(土)～5日(日)	授業デザインワークショップ(第24回)	愛媛大学	FD	17	0	17	17	0	0	2	
7月11日(土)～12日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD	17	0	17	17	0	0	5	
7月11日(土)～12日(日)	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD	3	0	3	3	0	0	2	
7月16日(木)～18日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	愛媛大学	SD	15	0	15	0	15	0	9	
7月16日(木)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回) ※模擬講義	愛媛大学	SD	20	0	20	0	20	0	4	
7月23日(木)	管理監督者のためのメンタルヘルス研修会	愛媛大学	FD/SD	39	0	39	2	37	0	13	
8月											
8月18日(火)	プロジェクトマネジメント ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	20	0	20	20	0	0		
8月18日(火)	学習評価の基本 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD	11	0	11	11	0	0	1	
8月21日(金)	ルーブリック評価入門ーブレない・速い・楽チン成績評価のススメー ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	7	65	72	68	4	0	2	4
8月21日(金)	講義のための話し方入門 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	7	25	32	25	7	0	1	5
9月											
9月1日(火)～3日(木)	授業デザインワークショップ(第25回)	愛媛大学	FD	18	0	18	18	0	0	7	
9月2日(水)～3日(木)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	FD	15	0	15	14	0	1	3	
9月3日(木)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～ ＜秋期FDセミナー＞	高知大学	FD	3	0	3	3	0	0		
9月4日(金)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門ーARCS動機づけモデルの活用ー ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	3	0	3	3	0	0	1	
9月8日(火)	大人数講義法の基本 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	0	51	51	50	1	0		4
9月8日(火)	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと ～質問が出る教室づくり～ ＜秋期FDセミナー＞	高知大学	FD	4	0	4	4	0	0		
9月10日(木)～11日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目 第1回)	愛媛大学	SD	42	0	42	0	42	0	8	
9月11日(金)	効果的なeラーニング活用方法(超入門編) ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD	4	0	4	3	1	0	1	
9月11日(金)	高等教育機関における安全衛生	愛媛大学	FD/SD	14	0	14	1	13	0	6	
9月14日(月)	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD	2	0	2	2	0	0		
9月17日(木)～18日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目 第2回)	愛媛大学	SD	39	0	39	0	39	0	3	
9月17日(木)～18日(金)	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	香川大学	FD	15	0	15	15	0	0	4	
9月17日(木)	パワーポイント2010基本技・便利技 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	12	0	0	8	4	0	2	
9月18日(金)	eラーニング活用(入門編)ー学習支援システムMoodleを活用してきめ細やかな学習支援を実現しようー ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	17	0	17	11	6	0	3	
9月25日(金)	動画教材作成法 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	愛媛大学	FD/SD	5	0	5	5	0	0	1	
9月25日(金)～27日(日)	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ＜高専対象＞	愛媛大学	FD	5	0	5	5	0	0	1	

日 程	プログラム名	開催大学	対象	受講者数			内訳人数			参加校数 (開催校以外)	
				対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔
9月30日(水)	TA講習	高知大学	ブレFD	31	0	31	0	0	31		
9月29日(火)	大人数講義を魅力的にするテクニック	香川大学	FD	9	0	9	9	0	0	3	
9月28日(火)	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・話し合いの技法編ー	香川大学	FD	8	0	8	8	0	0	3	
9月28日(火)	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・教え合いの技法編ー	香川大学	FD	6	0	6	6	0	0	3	
9月29日(火)	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・問題解決の技法編ー	香川大学	FD	7	0	7	7	0	0	3	
10月											
10月14日(水)～15日(木)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム レベルⅡ	愛媛大学	SD	22	0	22	0	22	0	6	
11月											
11月5日(木)～7日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	高知大学	SD	17	0	17	0	17	0	10	
11月19日(木)～20日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム レベルⅠ	愛媛大学	SD	0	0	0	0	0	0		
12月											
12月3日(木)～4日(金)	職員のための講師養成講座(第2回)「マイクロティーチング」	愛媛大学	SD	0	0	0	0	0	0		
12月24日(木)	アクティブ・ラーニング入門セミナー	愛媛大学	FD/SD	0	0	0	0	0	0		
12月下旬	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
12月下旬	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
1月											
1月6日(水)	大学教育カンファレンス in 徳島	徳島大学	FD*/SD	0	0	0	0	0	0		
1月14日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	FD/SD	0	0	0	0	0	0		
1月20日(水)	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方〈春期FDセミナー〉	高知大学	FD	0	0	0	0	0	0		
1月21日(木)～22日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	愛媛大学	SD	0	0	0	0	0	0		
2月											
2月9日(火)～10日(水)	ファシリテーション力養成道場	高知大学	FD/SD	0	0	0	0	0	0		
3月											
3月上旬	「情報整理の方法」をどう教えるか	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月上旬	「レポートの書き方」をどう教えるか	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月上旬	「プレゼンテーションの方法」をどう教えるか	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月上旬	「日本語技法」をどう教えるか①	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月上旬	「日本語技法」をどう教えるか②	香川大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月24日(木)	初年次科目のためのグループワークの技法〈春期FDセミナー〉	高知大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月24日(木)	能動的学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門〈春期FDセミナー〉	高知大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月25日(金)	授業効果を高めるために初回の授業ですべきこと～受講生のやる気スイッチをONにする～〈春期FDセミナー〉	高知大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月30日(水)	TA講習	高知大学	ブレFD	0	0	0	0	0	0		
3月中	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	徳島大学	FD	0	0	0	0	0	0		
3月中	愛媛大学教育改革シンポジウム	愛媛大学	FD*/SD	0	0	0	0	0	0		

講師派遣

5月7日(木)	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	徳島工業短期大学	FD	19	0	19	18	1	0	1	
5月29日(金)	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	新居浜工業高等専門学校	FD	37	0	37	37	0	0		
6月3日(水)	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	高知工業高等専門学校	FD	22	0	22	22	0	0		
6月15日(月)	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	弓削商船高等専門学校	FD	22	0	22	22	0	0		
7月7日(火)	事例から考えるハラスメント	香川短期大学	FD/SD	66	0	66	50	16	0		
7月30日(木)	事例から考えるハラスメント	松山東雲女子大学・短期大学	FD/SD	65	0	65	38	26	1		
7月31日(金)	効果的なeラーニングの活用方法	阿南工業高等専門学校	FD	14	0	14	14	0	0		
8月6日(木)	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	愛媛県立医療技術大学	FD	35	0	35	34	1	0		
8月19日(水)	コーディネート力養成講座	香川大学	FD/SD	30	0	30	4	26	0	2	

日 程	プログラム名	開催大学	対象	受講者数			内訳人数			参加校数 (開催校以外)	
				対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔
8月24日(月)	事例から考えるハラスメント	香川県立保健医療大学	FD/SD	43	0	43	36	7	0		
8月31日(月)	教職員のためのPowerPoint～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～	聖カタリナ大学・短期大学部	FD/SD	30	0	30	0	30	0		
9月10日(木)	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	徳島文理大学・短期大学部	FD	49	0	49	47	2	0		
9月14日(月)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門～ARCS動機づけモデルの活用～	四国大学・短期大学部	FD	29	0	29	28	1	0	1	
9月15日(火)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～	高知学園短期大学	FD	40	0	40	35	5	0		
9月17日(木)	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方、組み立て方～	今治明德短期大学	FD/SD	25	0	25	12	0	13	1	
9月18日(金)	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	愛媛大学	FD/SD	12	0	12	4	8	0	2	
9月24日(木)	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	高知県立大学・高知短期大学・高知工科大学	FD	32	0	32	32	0	0		
9月30日(水)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～	環太平洋大学短期大学部	FD	19	0	19	19	0	0		
10月8日(木)	学生の学びを促すシラバスの書き方	松山大学・松山短期大学	FD	25	0	25	25	0	0		
10月21日(水)	インストラクショナル・デザイン(ID／教育設計)を活用した企画・立案マネジメント	徳島大学	FD	22	0	22	0	22	0	3	
10月28日(水)	プロジェクト・マネジメント入門	高知大学	FD/SD	17	0	17	17	0	0		
2月18日(木)(予定)	学生が輝くFDの実践事例	高松大学・高松短期大学	FD	0	0	0	0	0	0		
合 計				675	149	812	446	346	32	146	15